

## ギニアグラスの栽培利用法

### 第1報 休眠覚醒処理, 播種期, 播種量について

樋渡 隆・恒吉利彦・黒江秀雄 (鹿児島県畜産試験場)

Takashi HIWATASHI, Toshihiko TSUNEYOSHI and Hideo KUROE : Stabilized Cultivation and Utilization of Guinea Grass.

#### 1. Effect of Dormancy Awakening, Seeding Time and Seeding Rate

夏季に高い生産性を発揮する暖地型牧草の中でギニアグラスが注目され、その普及が期待されている。そこでギニアグラスの安定栽培利用技術を確認するために、休眠覚醒処理、播種期、播種量について検討したので報告する。

#### 1. 試験方法

休眠覚醒処理は、1986年に当畜産試験場で採種したギニアグラス「ナツカゼ」の種子を'87年4月にジベレリン処理 (50 ppm)、乾熱処理 (35℃) を行った後シャーレ上にろ紙を敷き、その上で種子の発芽について調査を実施した。外気温は昼間30℃ (12時間)、夜間20℃ (12時間) とした。

1987年4月20日から8月23日まで播種量を1.0~2.5kg/10aとして7回播種し、その収量、再生について調査を実施した。

#### 2. 結果及び考察

休眠覚醒処理の効果は第1表に示すとおりである。無処理では9%であったが、ジベレリン処理により24%へ発芽率が向上した。また、乾熱処理では、15日間が最も効果が高く34%であった。

刈取時期と刈取回数は第2表に示した、4月20日、5月11日播きが4回の刈取り、5月20日、6月16日播きが3回、7月16日播きが2回、8月5日、8月23日播きが1回の刈取りであった。8月播きでも10月には刈取りが行えるので、トウモロコシ収穫後、冬作物作付までの短期間でも利用は可能と思われる。

乾物収量を第3表に示した。4月20日播きでは、2.5kg/10a播種が最も収量が多く次いで1.5kgであった。5月11日播きでは2.5kg、1.5kgの順であったが、1.5~2.5kgの播種では収量にほとんど差はなかった。5月20日播きでは、2.5kg、1.0kgの順であった。6月16日播きでは1.5kg、2.5kgの順であった。7月16日以降の播種ではいずれの区も乾物収量が1.000kg/10aに達しなかった。8月

5日播きでは1.0kg、2.0kgの順であった。8月23日播きでは2.5kg、2.0kgの順であった。以上のことより、播種期と播種量の関係は明確ではなかったが、播種量は1.5~2.5kgの間でよく、4月中旬から6月中旬までに播種すれば3回以上刈取りができ、1,000kg/10a以上の乾物収量が期待できることがわかった。

#### 3. 要約

ギニアグラスの自家採種種子を播く場合は、35℃、15日間の乾熱処理をしたものを播種する。播種量は1.5~2.5kg/10aの間でよいことがわかった。

第1表 休眠覚醒処理と発芽率

処理方法	処理期間	発 芽 率 %	
		ギニアグラス	グリーンパニク
無処理	—	9	10
ジベレリン処理	—	24	—
乾熱処理(35度)	5日	18	—
	10日	20	—
	15日	34	24
	20日	24	—
L S D	0.05	11.1	15.5

第2表 刈取回数と刈取日

刈取日	刈取回数
4月20日	4
5月11日	4
5月20日	3
6月16日	3
7月16日	2
8月5日	1
8月23日	1

第3表 乾物収量

(1~4回刈り合計kg/10a)

播種日(刈取回数)		4/20(4)	5/11(4)	5/20(3)	6/16(3)	7/16(2)	8/5(1)	8/23(1)
播 種 量								
ギニアグラス	1.0kg/10a	1,594.8	1,315.4	1,624.4	1,056.1	903.6	857.6	566.7
"	1.5 "	1,899.8	1,344.1	1,492.7	1,260.3	705.5	801.5	596.2
"	2.0 "	1,870.1	1,399.3	1,512.5	1,154.5	721.1	817.3	629.0
"	2.5 "	1,954.3	1,348.1	1,721.6	1,223.1	873.2	799.9	631.7
グリーンパニク	2.0 "	1,464.4	857.5	1,276.1	833.5	968.9	485.6	590.6
L S D	0.05	729.1	308.0	735.8	196.1	144.8	135.9	193.9